

滑空機
「自家用操縦士レベル」
訓練シラバス

2008年5月

作成 日本学生航空連盟 関東支部運営委員会

監修 財団法人日本学生航空連盟 教育訓練部

シラバスの発行について

他大学で指導する時、戸惑うことがあります。例えば、「課目・急旋回」と言われても、それが30度バンクを意味しているのか45度バンクを意味しているのか分からないからです。また、360度旋回なのか180度蛇行なのかも分かりません。

「〇〇搭乗、43回目、課目・30度バンク360度旋回・3回目」と言ってもらえたら、初めての訓練生でもどこに注意して指導すればいいか分かります。

辞書によると、シラバスとは「講義の摘要、講義要目、学年あるいは学期中の授業・講義の計画や内容の概略を各時限ごとに記したもの」となっています。

連盟は、自家用操縦士（滑空機）の指定養成施設ですが、グライダー・スポーツ手帳には入所審査実施要領と実技審査の判定基準はありますがシラバスは載っていません。そのため、大学によって学科教育や飛行訓練の内容に大きなバラツキがあります。

100回以上飛んでいるのに、30度バンクの課目しかやっていないということもあります。シラバスに沿った飛行訓練や学科講習を行っていないと、入所してから初めて覚えることや実施する課目ばかりになります。

このシラバスでは、60回目で単独飛行となっていますが、これは機種とか個人差により大きく違ってきます。60回目というのは、ASK13クラスの機体に乗って、順調に課目を終えた場合の基準であり、ASK21クラスになれば70回目とか80回目とかが基準になると考えられます。

また、訓練生の飛行適性や滞空等により、4回かける課目が2回で終わることもあります。しかし、ストールや索切れ処置などの単独飛行までに行うべき課目については、安全性の観点からもすべて終了する必要があります。

各大学でこのシラバスを活用しようとしても、教官が知らないと学生は困ります。

自分はこれまでどおり訓練するので、シラバスは参考にする程度だよ、というのでは意味がありません。教官にも使ってもらい、意見を頂いて、よりよいものに改訂していければと願っています。

関東支部運営委員会
下平一晴

目 次

第1部 滑空機操縦士 訓練シラバス概要	
学科教習時間	1
実技標準教習時間	1
学科訓練シラバス	2
飛行訓練シラバス	5
基礎課程シラバス進捗表	8
第2部 TRAINING GUIDE	12
課目・訓練の目的・到達レベル・要求知識レベル	
第3部 TRAINING GUIDE APPENDIX	
場周 シラバス 進捗表	26
場周飛行／基本操作	28
(横風・強風) 場周 シラバス 進捗表	35
場周飛行／強風・横風	37
飛行機曳航	42

滑空機操縦士訓練シラバス概要

学科教習時間

課 目	教習時間	課 目	教習時間
1. 導入教育	3+00	9. 航空通信	4+30
2. 航空法規	10+00	10. 航空交通管制	3+30
3. 飛行規程	2+00	11. 航法	4+30
4. 航空気象	4+30	12. 運航管理と安全対策	1+30
5. 航空工学－Ⅰ	4+00	13. 操縦技術	8+00
6. 航空工学－Ⅱ	2+00	14. 野外飛行の基礎	3+30
7. 航空工学－Ⅲ	2+30	15. 航空衛生と救急法	3+00
8. 滑空機の整備・取扱	2+30	模擬試験	1+00
自家用操縦士(滑空機上級)課程標準教習時間合計			60+00

実技標準教習時間

教 習 課 程		ウインチ曳航	
		回 数	時 間
一般教習	同乗飛行	122	12+12
	単独飛行	28	2+50
合 計		150	15+00

* 指定養成航空従事者養成課程受講資格：

一般教習において、28回以上及び2時間50分の単独時間を含む12時間以上の飛行経験を有し、技能証明申請まで学科試験合格の有効期間を満足していること。

学科訓練シラバス

課 目	主 な 内 容	教習時間
1 導入教育		3+00
全般概要	<ul style="list-style-type: none"> ・航空機の歴史、滑空スポーツ ・滑空場使用規則、場内行動、危険行為、服装、健康管理 ・滑空場周辺の地形・地物の状況 ・訓練シラバス、訓練計画の概要 ・機体慣熟(コクピットタイム) 	3+00
2 航空法規		10+00
2-1 法体系	<ul style="list-style-type: none"> ・国際法との関係及び航空法の構成及び関連法規 ・航空法の意義、重要性 ・航空行政管轄組織の概要 	0+30
2-2 定義・登録関係	<ul style="list-style-type: none"> ・用語、定義、登録関係 	0+45
2-3 航空従事者	<ul style="list-style-type: none"> ・技能証明、業務範囲、操縦練習関係(60条、92条)、 携帯する書類、フライトログの記入要領 	2+00
2-4 航空機の運航	<ul style="list-style-type: none"> ・搭載書類、進路権、操縦者の見張りの義務、航空機の事故、 報告の義務 ・有視界飛行方式、有視界飛行状態、最低安全高度、巡航高度 ・物件の曳航、離着陸の場所、曲技飛行、飛行計画、救急用具 	4+30
2-5 航空機の安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・耐空証明, SB, TCD、耐空性基準、整備、修理と改造 	1+00
2-6 機長の出発前の 確認事項	<ul style="list-style-type: none"> ・確認の実施要領、その他罰則等 	1+15
3 飛行規定		2+00
3-1 飛行規定の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行規定に示すべき内容の確認(航空法) 	0+30
3-2 飛行規定の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・飛行規定に示された各章の内容の確認、理解 	1+30
4 航空気象		4+30
4-1 大気の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・大気の構造、空気密度、気温と気圧、大気の安定 	0+45
4-2 風と雲	<ul style="list-style-type: none"> ・気圧と風、雲形雲高雲量、視程及び視程障害現象、降水と着氷 	0+30
4-3 大気の循環	<ul style="list-style-type: none"> ・大循環、ジェット気流、季節風 	0+30
4-4 気団と前線	<ul style="list-style-type: none"> ・気団、前線、日本付近の気象 	0+30
4-5 危険な気象	<ul style="list-style-type: none"> ・雷の構造、乱気流、台風 	0+30
4-6 航空機と気象	<ul style="list-style-type: none"> ・気象と運行の安全、気象と性能 	0+30
4-7 滑空機と気象	<ul style="list-style-type: none"> ・上昇風と下降風の発生・種類、航空気象観測 	0+30
4-8 気象情報の種類と その活用	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の収集、解説、評価、予測 	0+45
5 航空工学－ I		4+00
5-1 流体の性質	<ul style="list-style-type: none"> ・密度、粘性、圧縮生、連続性、動圧と静圧、基本法則と方程式 	1+00
5-2 飛行の原理	<ul style="list-style-type: none"> ・翼理論、揚力抗力、力の釣り合い ・誘導抗力、地面効果 	0+45
5-3 操縦性と安定性	<ul style="list-style-type: none"> ・重心位置と姿勢と力の釣り合い、動安定と静安定、旋回とG 	0+45
5-4 性能	<ul style="list-style-type: none"> ・各種性能、運動方程式、翼面荷重と性能曲線、失速・スピン 荷重倍数と失速速度 	1+30

学科訓練シラバス

6 航空工学－Ⅱ		2+00
6-1 航空機の構造	・基本構造、構成要素、機構	0+30
6-2 航空機の材料	・主要構造部材構成部品と材料	0+30
6-3 強度と設計	・材料力学の初歩、荷重、応力集中、疲労、強度、材料試験、耐空性審査基準、単位系(SI)	1+00
7 航空工学－Ⅲ		2+30
7-1 航空計器	・計器系の構造、動作原理と特性、誤差、故障と対策、保守	1+00
7-2 装備品と取扱い	・装備品、救急用具酸素設備と取扱い、関係法規(高圧ガス取締法)	1+00
7-3 曳航装備、機材	・曳航設備の保守と安全性、曳航関連設備と機材	0+30
8 滑空機の整備取扱い		2+30
8-1 一般知識	・用語、工具と使用法、一般知識	0+30
8-2 日常取扱と保管	・分解組立、点検、地上取扱い、保管	1+00
8-3 関連法規	・整備修理改造に係わる法規とサーキュラー、手続き	0+30
8-4 整備と保守	・整備、保守、簡単な修理、故障対策、不具合処理、計測	0+30
9 航空通信		4+30
9-1 電磁波の基礎知識	・電磁波の性質、通信原理、基本回路の等の一般知識	1+00
9-2 航空通信設備	・航空無線通信システム、各種無線設備の概要(SSRとレーダ、VORとDME、ADFとNDB等)	1+00
9-3 電波法規	・無線従事者、無線設備の運用、電波法規	1+00
9-4 無線設備の取扱い	・取扱い、業務日誌	0+30
9-5 通話要領	・電気通信術	1+00
10 航空交通管制		3+30
10-1 航空交通業務	・航空交通業務の種類、目的、管轄空域	0+30
10-2 空域	・飛行情報区、管制空域、非管制空域等	0+30
10-3 航空交通管制業務	・航空交換性業務の種類、概要	0+30
10-4 航空保安施設	・航空保安施設種類、概要	0+30
10-5 通信要領	・通信の種類と優先順位、通信設定の設定と送信要領	1+30
11 航法		4+30
11-1 一般知識	・航法の目的、航法の3要素、航空図、風力三角形	1+00
11-2 プロッタと計算盤	・プロッタと航法計算盤の使い方	1+00
11-3 推測航法	地文航法と推測航法の机上演習	1+00
11-4 計算盤の応用	・高度と速度の補正、計算盤の応用	0+30
11-5 飛行計画	・飛行計画の作成要領、通報要領、AEIS	1+00
12 運航管理と安全対策		1+30
12-1 運行管理	・運航式及び運行管理(ピストワーク)、安全間隔	0+30
12-2 安全対策	・滑空場管理、医療救急体制、緊急事態発生時の処置	1+00

学科訓練シラバス

13 操縦技術		8+00
13-1 直線滑空	・操縦装置の機能・操作、外部参照物の活用法	0+30
13-2 基本旋回	・基本旋回操作、対空警戒と目標	0+30
13-3 離陸、上昇、離脱	・飛行機曳航、ウインチ曳航	1+00
13-4 失速	・各種失速と回復操作、低速飛行	1+00
13-5 場周飛行	・場周飛行パターン、進入目測	1+00
13-6 進入着陸	・進入(グライドパス)、基本着陸、横風着陸、横滑り進入	1+00
13-7 緊急操作	・異常姿勢と回復、緊急対応	1+00
13-8 応用操作	・急旋回、螺旋降下、レイジーエイト、上昇風の利用	1+00
13-9 受験科目	・受験科目と飛行計画	1+00
14 野外飛行の基礎		3+30
14-1 上昇風	・上昇風(種類と特徴、成因と場所)、気象と上昇風、エマグラム	0+45
14-2 滑翔技術	・滑翔技術、飛行線図とコンピューター、マクレディリング	1+30
14-3 飛行計画	・飛行準備と計画、エンルートの通信、不時着と連絡、サバイバル	1+15
15 航空衛生と救急法		3+00
15-1 成人の体	・成人の体、身近な疾病と兆候、検査異常値、酒と体	0+30
15-2 航空と生理	・航空環境と生理(ハイポキシア、バーティゴ、Gと生理、CO中毒)	0+30
15-3 予防と救急	・予防医学と救急法(熱中症、破傷風、感染症、人工呼吸法)	0+30
15-4 薬物と生理	・身近な薬物と生理及び航空業務	0+30
15-5 作業と健康	・整備修理作業環境と健康、薬物管理(有機溶剤、樹脂の粉末、特定化学物質)と健康障害、 ・環境汚染、労働衛生安全法	0+30
15-6 航空身体検査	・航空身体検査	0+30
模擬試験		1+00
学科講習時間合計		60+00

飛行訓練シラバス

訓練段階	科目番号	標準飛行回数 及び飛行時間		実技訓練科目 (主な実施科目及び内容)	地上座学課目 (課目番号・内容)	
		単独	同乗			
PH-I	基本操作・基本離着陸段階	1-2		2 0+12	体験搭乗・地形慣熟	1 導入教育 15-6 航空身体検査
		3-5		3 0+18	操舵要領	5-1 流体の性質 5-2 飛行の原理 6-1 航空機の構造 4-6 航空機と気象 13-1 直線滑空 13-2 基本旋回
		6-11		6 0+36	直線滑空	13-3 離陸、上昇、離脱 13-4 失速 3-1 飛行規定の根拠 3-2 飛行規定の内容 9-4 無線設備の取扱 9-5 通話要領
		12		1 0+06	ストール体験	13-5 場周飛行 13-6 進入着陸 2-1 法体系 2-2 定義・登録関係 2-3 航空従事者 4-1 大気の種類 7-1 航空計器
		13-24		12 1+12	15度バンクの旋回 (90度、180度、360度)	4-2 風と雲 4-3 大気の循環 2-4 航空機の運航 2-6 機長の出発前の 確認事項
		25		1 0+06	サブG体験	
		26-27		2 0+12	ストールからの回復	4-4 気団と前線
		28-36		9 0+54	15度バンク旋回の繰り返し (360度、180度、90度)	2-5 航空機の安全性
		37-38		2 0+12	低速飛行	15-4 薬物と生理
		39-40		2 0+12	計器なし飛行	5-3 操縦性と安定性
		41-44		4 0+24	30度バンクの旋回(360度)	5-4 性能
		45		1 0+06	索切れ処置	13-7 緊急操作
		46-49		4 0+24	30度バンクの旋回(180度)	9-3 電波法規
		50		1 0+06	スピン初動体験	
		51-52		2 0+12	ストールからの回復	
		53		1 0+06	計器なし飛行	
		54-57		4 0+24	30度バンクの旋回(90度)	
		58		1 0+06	索切れ処置	
		59		1 0+06	PH-I PROGRESS C'K	
		60		1 0+06	単独飛行(1)	
PH-I 小計		1 0+06	59 5+54			

飛行訓練シラバス

PH-Ⅱ	基本離着陸・応用操作段階	61-66		6 0+36	30度バンク蛇行 (180度、90度)	8-1 一般知識 8-2 日常取扱と保管 8-3 関連放棄 8-4 整備と保守	
		67		1 0+06	PROGRESS C'K	12-1 運行管理	
		68	1 0+06			単独飛行(2)	12-2 安全対策
		69-70		2 0+12	最小沈下速度による直線飛行	4-5 危険な気象 4-7 滑空機と気象 4-8 気象情報の種類と活用	
		71-72		2 0+12	最小沈下速度 (30度バンク 360度旋回)		
		73		1 0+06	ストールからの回復		
		74		1 0+06	高速飛行		
		75		1 0+06	PROGRESS C'K	6-2 航空機の材料	
		76	1 0+06			単独飛行(3)	6-3 強度と設計
		77-82		6 0+36	45度バンク旋回 (360度、720度)	7-2 装備品と取扱い 7-3 曳航装置、機材	
		83		1 0+06	索切れ処置		
		84		1 0+06	PROGRESS C'K		
		85	1 0+06				単独飛行(4)
		86-88		3 0+18	45度バンク8字飛行		
		89-91		3 0+18	45度バンク180度蛇行		
		92		1 0+06	スピン初動からの回復		
		93		1 0+06	PROGRESS C'K	15-1 成人の体 15-2 航空と生理 15-3 予防と救急 15-5 作業と健康	
		94	1 0+06				単独飛行(5)
		95	1 0+06				単独飛行(6)
		96		1 0+06	最良滑空速度による飛行	10-1 航空交通業務 10-2 空域 13-8 応用操作	
		97-98		2 0+12	最良滑空速度による飛行 (30度45度バンク360度旋回)		
		99	1 0+06				単独飛行(7)
		100-101		2 0+12	最小沈下速度 (30度45度バンク360度旋回)		
		102		1 0+06	PH-Ⅱ PROGRESS C'K		
103	1 0+06			単独飛行(8)			
104	1 0+06			単独飛行(9)			
PH-Ⅱ小計		8 0+48	36 3+36				
PH-Ⅰ・Ⅱ合計		9 0+54	95 9+30				

飛行訓練シラバス

PH-III	応用操作・ソアリング・自家用上級課程科目練習段階	105-106		2 0+12	対地360度旋回	13-9 受験科目 9-1 電磁波の基礎知識 9-2 航空通信設備	
		107		1 0+06	索切れ処置		
		108	1 0+06			単独飛行(10)	11-1 一般知識 11-2 プロッタと計算版
		109	1 0+06			単独飛行(11)	
		110-111		2 0+12		対地360度旋回	11-3 推測航法 11-4 計算盤の応用
		112	1 0+06			単独飛行(12)	
		113	1 0+06			単独飛行(13)	11-5 飛行計画
		114-115		2 0+12		クロスコントロールによる飛行	
		116	1 0+06			単独飛行(14)	10-3 航空交通管制業務 10-4 航空保安施設
		117	1 0+06			単独飛行(15)	
		118-119		2 0+12		サーマル旋回要領	10-5 通信要領
		120	1 0+06			単独飛行(16)	
		121	1 0+06			単独飛行(17)	14-1 上昇風 14-2 滑翔技術 14-3 飛行計画
		122-123		2 0+12		場外着陸要領	
		124	1 0+06			単独飛行(18)	
		125	1 0+06			単独飛行(19)	
		126-127		2 0+12		スピン初動からの回復	
		128		1 0+06		索切れ処置	
		129	1 0+06			単独飛行(20)	
		130	1 0+06			単独飛行(21)	
		131-132		2 0+12		サーマル旋回要領	
		133	1 0+07			単独飛行(22)	
		134	1 0+07			単独飛行(23)	
		135-136		2 0+12		スパイラルダイブからの回復	
		137	1 0+06			単独飛行(24)	
		138	1 0+06			単独飛行(25)	
		139-141		3 0+18		自家用試験科目	
				1 0+06		単独飛行(26)	
				1 0+06		単独飛行(27)	
				4 0+24		自家用試験科目	
				1 0+06		単独飛行28	
				2 0+12		自家用課程入所審査	
		PH-III小計		19 1+56	27 2+42		
総計		28 2+50	122 12+12				

基礎課程 シラバス 進捗表

訓練段階	回数	実技課目	場周課目
PHASE I	1	体験飛行 1	飛行準備(点検・報告)
	2	体験飛行 2	
	3	操舵要領 1(エレベータ)	W/T離陸上昇姿勢の把握
	4	操舵要領 2(エルロン)	
	5	操舵要領 3(ラダー)	
	6	直線滑空 1	W/T離脱操作
	7	直線滑空 2	無線操作(高度報告)
	8	直線滑空 3	
	9	直線滑空 4	着陸後の地上滑走
	10	直線滑空 5	離脱後の速度セット
	11	直線滑空 6	
	12	ストール体験	
	13	15度バンク 90度旋回 1	W/T中盤以降上昇角の持続
	14	15度バンク 90度旋回 2	
	15	15度バンク 90度旋回 3	第1旋回 & 第2旋回
	16	15度バンク 90度旋回 4	
	17	15度バンク 180度旋回 1	第3旋回 & 第4旋回
	18	15度バンク 180度旋回 2	
	19	15度バンク 180度旋回 3	W/T離陸 & 初期上昇
	20	15度バンク 180度旋回 4	
	21	15度バンク 360度旋回 1	アプローチ(ベース & ファイナル・レッグ)
	22	15度バンク 360度旋回 2	
	23	15度バンク 360度旋回 3	離陸前地上滑走
	24	15度バンク 360度旋回 4	
	25	サブG体験	着陸操作(フleaー・ランディング)
	26	ストールからの回復 1(初期)	
	27	ストールからの回復 2(完全)	ダイブブレーキ操作
	28	15度バンク 360度旋回繰り返し 1	
	29	15度バンク 360度旋回繰り返し 2	チェックポイントの通過
	30	15度バンク 360度旋回繰り返し 3	
	31	15度バンク 180度蛇行 1	偏流
	32	15度バンク 180度蛇行 2	
	33	15度バンク 180度蛇行 3	風向・風速を考慮した第3旋回
	34	15度バンク 90度蛇行 1	
	35	15度バンク 90度蛇行 2	風向・風速を考慮した第4旋回
	36	15度バンク 90度蛇行 3	
	37	低速飛行 1(直線)	風を考慮した帰投判断
	38	低速飛行 2(旋回)	
	39	計器無し飛行 1(速度)	
	40	計器無し飛行 2(高度)	
	41	30度バンク 360度旋回 1	
	42	30度バンク 360度旋回 2	
	43	30度バンク 360度旋回 3	
	44	30度バンク 360度旋回 4	

基礎課程 シラバス 進捗表

訓練段階	回数	実技課目	場周課目
PHASE I	45	策切れ処置 1	
	46	30度バンク 180度旋回 1	
	47	30度バンク 180度旋回 2	
	48	30度バンク 180度旋回 3	
	49	30度バンク 180度旋回 4	
	50	スピン初動体験	
	51	ストールからの回復 3(初期)	
	52	ストールからの回復 4(初期)	
	53	計器無し飛行 3	
	54	30度バンク 90度旋回 1	
	55	30度バンク 90度旋回 2	
	56	30度バンク 90度旋回 3	
	57	30度バンク 90度旋回 4	
	58	策切れ処置 2	
59	PHASE I PROGRESS C'K		
60	単独飛行 1		
PHASE II	61	30度バンク 180度蛇行 1	
	62	30度バンク 180度蛇行 2	
	63	30度バンク 180度蛇行 3	
	64	30度バンク 90度蛇行 1	
	65	30度バンク 90度蛇行 2	
	66	30度バンク 90度蛇行 3	
	67	PROGRESS C'K	
	68	単独飛行 2	
	69	最小沈下速度による直線飛行 1	
	70	最小沈下速度による直線飛行 2	
	71	最小沈下速度 30度バンク360度旋回 1	
	72	最小沈下速度 30度バンク360度旋回 2	
	73	ストールからの回復 5(完全・2次)	
	74	高速飛行	
	75	PROGRESS C'K	
	76	単独飛行 3	
	77	45度バンク 360度旋回 1	
	78	45度バンク 360度旋回 2	
	79	45度バンク 360度旋回 3	
	80	45度バンク 720度旋回 1	
	81	45度バンク 720度旋回 2	
	82	45度バンク 720度旋回 3	
83	策切れ処置 3		
84	PROGRESS C'K		
85	単独飛行 4		
86	45度バンク 360度8字飛行 1		
87	45度バンク 360度8字飛行 2		
88	45度バンク 360度8字飛行 3		

基礎課程 シラバス 進捗表

訓練段階	回数	実技課目	場周課目
PHASE II	89	45度バンク 180度蛇行 1	
	90	45度バンク 180度蛇行 2	
	91	45度バンク 180度蛇行 3	
	92	スピン初動からの回復 1	
	93	PROGRESS C'K	
	94	単独飛行 5	
	95	単独飛行 6	
	96	最良滑空速度による飛行	
	97	最良滑空速度 30度バンク 360度旋回	
	98	最良滑空速度 45度バンク 360度旋回	
	99	単独飛行 7	
	100	最小沈下速度 30度バンク 360度旋回	
	101	最小沈下速度 45度バンク 361度旋回	
	102	PHASE II PROGRESS C'K	
103	単独飛行 8		
104	単独飛行 9		
PHASE III	105	対地360度旋回 1	
	106	対地360度旋回 2	
	107	策切れ処置 4	
	108	単独飛行 10	
	109	単独飛行 11	
	110	対地360度旋回 3	
	111	対地360度旋回 4	
	112	単独飛行 12	
	113	単独飛行 13	
	114	クロスコントロールによる飛行 1	
	115	クロスコントロールによる飛行 2	
	116	単独飛行 14	
	117	単独飛行 15	
	118	サーマル旋回要領 1	
	119	サーマル旋回要領 2	
	120	単独飛行 16	
	121	単独飛行 17	
	122	場外着陸要領 1(口述)	
	123	場外着陸要領 2	
	124	単独飛行 18	
125	単独飛行 19		
126	スピン初動からの回復 2		
127	スピン初動からの回復 3		
128	策切れ処置 5		
129	単独飛行 20		
130	単独飛行 21		
131	サーマル旋回要領 3		
132	サーマル旋回要領 4		

基礎課程 シラバス 進捗表

訓練段階	回数	実技課目	場周課目
PHASE III	133	単独飛行 22	
	134	単独飛行 23	
	135	スパイラルダイブからの回復 1	
	136	スパイラルダイブからの回復 2	
	137	単独飛行 24	
	138	単独飛行 25	
	139	自家用試験課目 1	
	140	自家用試験課目 2	
	141	自家用試験課目 3	
	142	単独飛行 26	
	143	単独飛行 27	
	144	自家用試験課目 4	
	145	自家用試験課目 5	
	146	自家用試験課目 6	
	147	自家用試験課目 7	
	148	単独飛行 28	
	149	自家用課程入所審査 1	
150	自家用課程入所審査 2		

飛行状況により実施する課目

	実技課目	場周課目
1	サーマル旋回 1	
2	サーマル旋回 2	
3	サーマル旋回 3	
4	サーマル旋回 4	
1		クロスウインドウ時の飛行 1
2		クロスウインドウ時の飛行 2
3		クロスウインドウ時の飛行 3
4		クロスウインドウ時の飛行 4
1		クラブによるアプローチ 1
2		クラブによるアプローチ 2
3		クラブによるアプローチ 3
4		クラブによるアプローチ 4
1		サイドスリップによるアプローチ 1
2		サイドスリップによるアプローチ 2
1		フォワードスリップによるアプローチ 1
2		フォワードスリップによるアプローチ 2